

【平成28年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

社会科における平成27年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 全体的に目標値をほぼ達成しているが、知識や技能の定着を目指して実践を続けていく必要がある。
- ・ 今後も、児童に習得させるべき知識や技能を確実に定着させることを目指す。授業計画を組み立てる時に、指導すべき知識を整理したり、地図や地球儀の読み取り方を繰り返し指導したりすることで、学力の向上につなげていきたい。
- ・ 最低限、習得すべき用語的な知識を身に付けられるように、授業の導入や資料提示の工夫を図り意欲を高める。

社会科における調査結果の分析

	3年単元(4年生)	4年単元(5年生)	5年単元(6年生)	
領域別結果の分析	地域や市の様子 生産や販売 先人の働き 全ての領域で、目標値を上回ることができた。買い物調べや工場の仕事の単元では、実際に見学を行い、見聞したことを作品としてまとめた。また、現場の人の工夫や努力について関連付けて考えることで一定の効果を上げることができた。課題としては、地図を読み取り、イメージを持つ力を身に付けさせたい。	安全を守る活動 生活環境を守る活動 先人の働き 県の様子 全ての領域で、目標値を上回ることができた。先人の働きの学習が課題である。学習計画をたてる段階で調べる方法を確認し、実行することにより、児童の技能として習得させる必要がある。また、地域の発展の学習において、複数の資料を丁寧に読み取れるように指導していく。	国土や自然などの様子 農業や水産業 工業生産 情報産業や情報化社会 全ての領域で目標値を達成できたが、世界の中の国土、食糧生産、工業地域の学習の達成度に課題がある。課題意識をもって調べる活動、意見文を書くといった活動を取り入れ、児童が学習を身近なものに感じられるよう授業を展開する必要がある。また用語的な知識の定着、複数の資料を読み取って説明する力を伸ばす指導が必要である。	
観点別結果の分析	社会的事象への関心・意欲・態度 全学年ともに目標値を上回った。導入の授業展開や資料提示の工夫をして意欲や関心を高めていく。また学習のまとめとして、社会に生きる自分がどのようにかかわっていくかという態度形成を問う学習も充実させた。	社会的な思考・判断・表現 全学年ともに目標値を上回った。ただし、どの学年にも表れている傾向として、複数の資料から分かることを関連付けて導き出したり、説明したりすることに課題が見られる。一つ一つの資料を丁寧に読み取って分かることを整理していく必要がある。	観察・資料活用の技能 全学年ともに目標値を上回った。ただし、資料が複数になると、問いに合った答えを導けない傾向が見られる。どの資料から何が分かるのかと丁寧に整理して、問いに合った情報を抜き出せるような指導をしていく必要がある。	社会的事象についての知識・理解 全学年ともに目標値を上回った。最低限身に付けさせるべき用語的な知識を確実に習得できるようにすることが大切である。1時間の学習で分かったことを、大切な用語をキーワードとして使ってまとめさせるようにして、定着を図りたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 問題解決的な学習の定着
→ 「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程に見通しをもてるように問題解決的な学習の定着を図り、児童が社会的事象を進んで調べ追究しようとする態度を育てていく。
- 2 分かったことや考えたことを短い文章で表現させる。
→ 社会的な思考力・判断力・表現力を伸ばしたり、知識・理解を定着させたりするために、事実や意見を自分の言葉で表現させる活動を多く取り入れる。その際、知識として得た社会的用語を使って説明させるようにする。
- 3 学習スキルを定着させる。
→ 「調べる」学習を充実させることで、学びの質を高めていく必要がある。何を、どうして、どのように調べるのかという目的意識をもたせる。また一つの資料から何が分かるのかを丁寧に読み取らせるようにする。
- 4 指導する内容、身に付けさせる知識を整理して指導する。
→ 授業の中で、どの資料を提示するのかを吟味・精選した上で学習を進めていく。また、語句や名称について時間が経過しても忘れないよう、意識して既習事項に触れたり復習する時間を取るといった工夫が必要である。

社会科の授業改善策

- 1 社会的事象への関心・意欲・態度を高めるために
→ 児童が関心・意欲をもてるような導入を工夫する。例えば、具体物やその仕事に従事している人に焦点を当て、学習を進める。また、問題解決的な学習の充実を図り、児童がストーリーを思い描けるような学習展開を工夫することで関心・意欲が持続できるようにする。その仕事に従事している人の思いや願いを取り上げたり、自分にできることについて考えさせたりすることで、積極的に社会にかかわろうとする態度を養っていく。
- 2 社会的な思考・判断・表現を高めるために
→ 問題解決的な学習で、学習問題の設定、予想・学習計画、見学や調査、学習問題の解決というサイクルを定着させる。学習問題を解決する段階では、調べたことをもとに自分の考えを表現する場面を設定する。
→ 調べる段階では、複数の資料から読み取ったことを比べたり、関連付けたり、まとめたりする思考の仕方を指導し、断片的な情報を自分の言葉で表現する活動を充実させる。
- 3 観察・資料活用の技能を高めるために
→ 表やグラフの読み取り方をくり返し丁寧に指導する。特に3・4年生の段階では、注目すべきポイントも合わせて指導していく。例えば、最大値、最小値、変化の差が大きいところ、変わらないところ など
→ 5、6年生では、複数の資料を読み取る場面、資料が示していることから思考する場面を設定していく。
- 4 社会的事象についての知識・理解
→ 八方位、都道府県・日本の周辺国の名称と位置は学年を問わず、地球儀や地図帳を活用して定着を図る。
→ 特に3年生、4年生においては、学区域図、大田区地図、地図帳を活用して、地図の読み取り方を繰り返し指導する。特に、四方位、八方位を用いて、地図から分かることを説明させたり、等高線の読み取り方を指導したりする。